

平成 29 年（2017 年）の秋サケの資源状況について

平成 29 年 6 月 27 日

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構
さけます・内水面水産試験場 さけます資源部

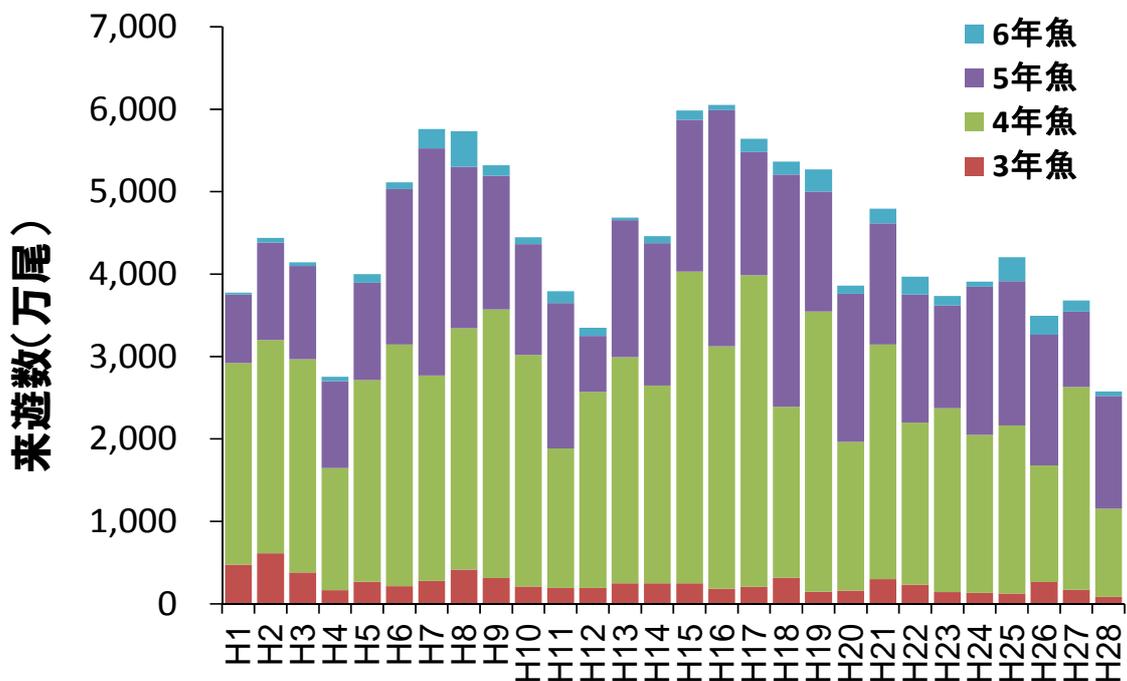


図1 最近の北海道への秋サケの来遊数（年齢別）の推移

平成 28 年の北海道への秋サケ来遊の特徴

平成 28 年（2016 年）の全道への秋サケ来遊数（沿岸での漁獲数と河川での捕獲数の合計）は 2,579 万尾と 3,000 万尾を割り込み、平成以降で最も少ない来遊数に留まりました（前年対比 70.1%）。

年齢別に見ると、5 年魚（平成 23 年生まれ）は 1,366 万尾と最近としては平年並みの来遊数でしたが、主群である 4 年魚（平成 24 年生まれ）は 1,069 万尾（来遊数全体の 41.5%）、さらに 3 年魚は 85 万尾といずれも平成以降では最も少ない来遊数に留まりました。

時期別に見ると、前期（1,262 万尾、前年対比 65.7%）、中期（1,126 万尾、75.3%）、後期（191 万尾、前年対比 72.1%）といずれも前年を大きく下回る来遊数でしたが、特に前期での落ち込みが顕著にみられました。

魚体サイズは平成 24 年に顕著にみられた小型化が（平均目廻り 3.10 kg）、平成 25 年以降回復傾向にありましたが、昨年は平成 27 年を若干下回るサイズでした（3.38 Kg）。

各海区への来遊状況

昨年の各海区への来遊数をみると、いずれの海区においても前年を下回りましたが、特にえりも以東での減少が顕著にみられました。年齢別にみると根室、えりも以東では昨年の4年魚が平成以降で最も少なく、それ以外の海区においても2～3番目に低い来遊数に留まりました。なお、5年魚の来遊数はいずれの海区とも概ね、平年並みとなっていました。

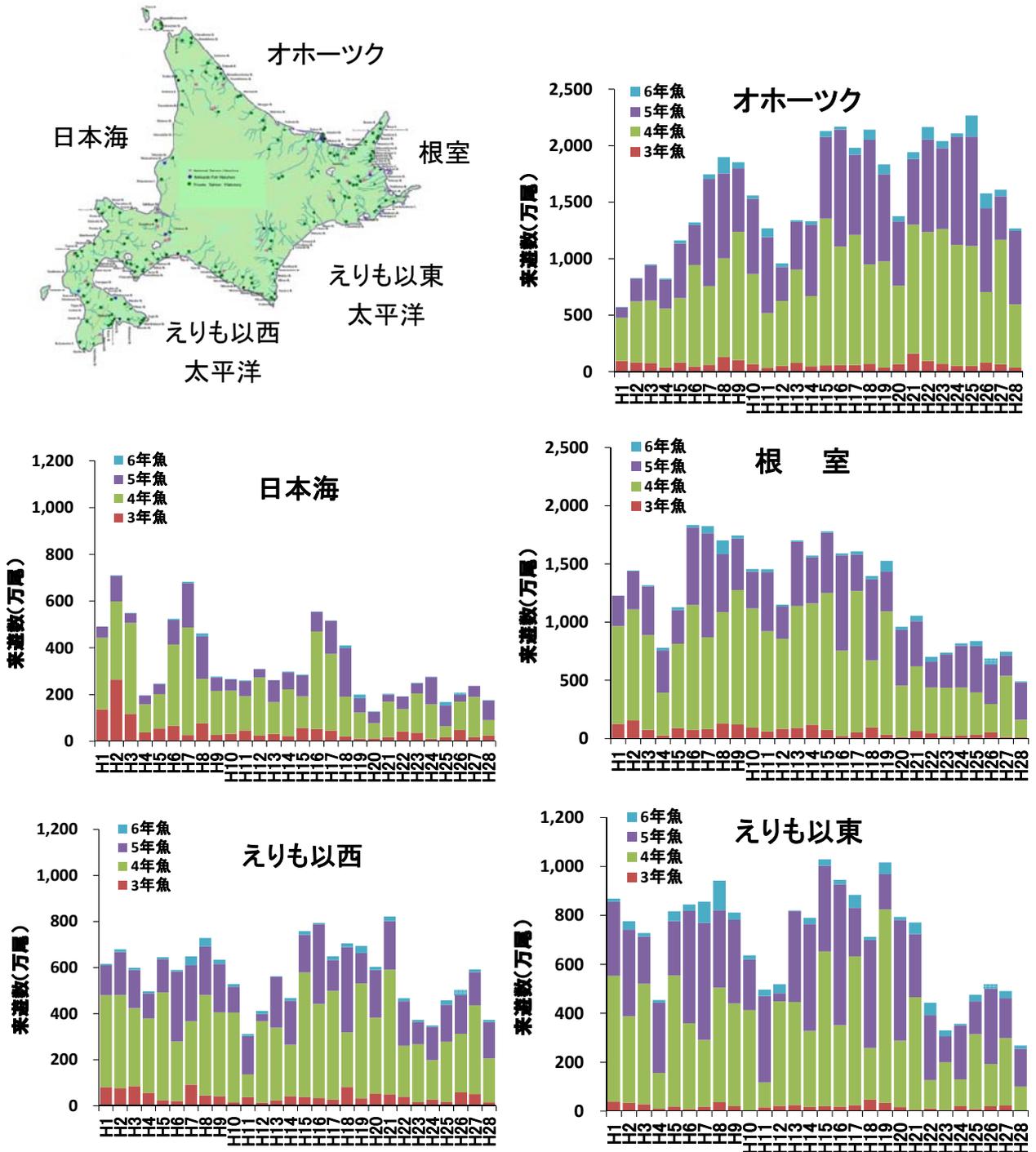
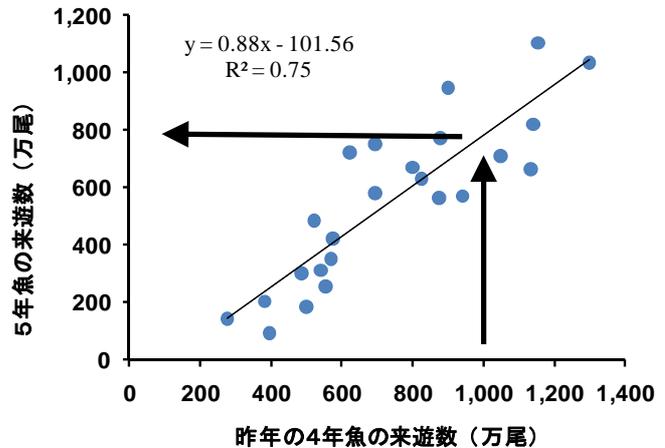


図2 最近の各海区への秋サケの来遊数（年齢別）の推移

今年(平成 29 年)の来遊予測

昨年までと同様にシブリング法という手法を基本として今年の来遊数を予測しました。この手法では、昨年の3年魚の来遊数から今年の4年魚の来遊数を、昨年の4年魚の来遊数から今年の5年魚の来遊数を推定します。

平成28年の3年魚の来遊数が少なかった地区では、今年の4年魚の回帰が少ないことが予想され、前年よりも来遊数が下回る地区もみられています。



今年の予測値

平成29年(2017年)の全道への秋サケ来遊数は2,480万6千尾と予測されます。地区別の予測値は下表のようになっています。

海 区	地 区	平成29年 予測値(千尾)	平成28年 来遊数(千尾)	前年比(%)
オホーツク	東 部	6,411	6,880	93.2
	中 部	3,839	3,446	111.4
	西 部	2,082	2,376	87.6
	小 計	12,332	12,702	97.1
根 室	北 部	4,049	4,111	98.5
	南 部	1,099	800	137.4
	小 計	5,148	4,911	104.8
えりも以東	東 部	658	1,036	63.5
	西 部	1,248	1,649	75.7
	小 計	1,906	2,686	71.0
えりも以西	日 高	1,089	1,514	71.9
	胆 振	616	797	77.3
	噴火湾	826	714	115.6
	道 南	895	705	127.0
	小 計	3,425	3,730	91.8
日 本 海	北 部	864	825	104.7
	中 部	793	643	123.5
	南 部	339	298	113.9
	小 計	1,996	1,765	113.1
北 海 道	総 計	24,806	25,794	96.2